

授業改善プラン

教科（ 技術 ）

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。改善策として ICT の活用を導入するものは**太字**

	観 点	1 学期	2 学期		3 学期	小中一貫の 取組
		今年度の取組 昨年度の課題から	分析	具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて	
1 年 生	知識・技能	教員が教え込むのではなく、自ら学ぶ授業の枠を作る。	本質的な問を投げかけても、調べたことをそのまま答える生徒が多い。	調べたものをそのままではなく、複数の資料から考察をする授業を取り入れる。		小学校での既習事項の定着度を、フォームを活用して確認し、授業に活かすことができた。
	思考力・判断力 表現力	生活や社会で実際に使われている技術を見つける。	授業で学んでいる技術を、授業以外で感じる場面は少ない。	身近な場面において、学んだ技術が使われている場面を考えられる授業を行う。		
	主体的に学習に取り組む態度	上手くできないことにも粘り強く取り組むことができる授業を行う。	製図の授業において、苦手さを感じ、粘り強く取り組むことが難しい生徒がいる。	自分に合った難易度の製図をスモールステップで挑戦できるように工夫する。		
2 年 生	知識・技能	1 対 1 の暗記ではなく、知識・技能を概念的に理解できる授業を行う。	言葉と意味を暗記するだけで、概念的な理解をしようとする生徒が少ない。	授業の中で「本質的な問い」を意識し、概念的な理解を促す。		小学校での既習事項の定着度を、フォームを活用して確認し、授業に活かすことができた。
	思考力・判断力 表現力	生活や社会で実際に使われている技術と学んだことを結び付ける。	授業で学んだ技術が社会の中でどのような役割を果たしているのかを考えることに対しては課題がある。	生活や社会での役割について考え、まとめる活動を行う。		
	主体的に学習に取り組む態度	「完成すればよい」ではなく、繰り返し改善をしていく授業を行う。	期間を定め、主体的に取り組むことはできている。しかし、改善をしながら作業をすることには課題がある。	PDCA サイクルを体感できる題材を行い、改善の大切さを実感させる。		
3 年 生	知識・技能	アルゴリズム的思考が身に付くような授業を行う。	命令文を覚えることはできるが、アルゴリズムを理解してプログラムをすることには課題がある。	アルゴリズム的思考を活用しないと解けない問題をスモールステップで出題する。		小学校にて、プログラミングの出前授業を行う。
	思考力・判断力 表現力	生活や社会で実際に使われている技術を評価する。	生活や社会で使われている技術を授業と結びつけることはできている。ただし、自分の考えを表現することには課題がある。	生活や社会で使われている技術を取り上げ、積極的に評価する授業を行う。		
	主体的に学習に取り組む態度	学習調整力を上げるために何をすればよいのか考える授業を行う。	わからないことに対して、原因や理由を考え、学習を調整していくことに関しては課題がある。	問題解決のプロセスを学習でも生かせるように指導を行っていく。		

カリキュラムマネジメントの視点から